

## 令和2年度第1回うきは市総合教育会議 議事録

1. 日時 令和2年7月2日(木)開会19時 閉会20時10分

2. 会場 うきは市役所 2階庁議室

3. 出席者

委員(敬称略)

市長	高木 典雄
教育長	麻生 秀喜(所用により欠席)
教育委員	西見 修一
教育委員	處 愛美
教育委員	家永 由里子
教育委員	古賀 公彦
事務局	学校教育課、生涯学習課、企画財政課

4. 議事 (1)うきは市教育大綱(基本方針)の策定について  
(2)その他

5. 議事録

開会

市長あいさつ

議事

市長

うきは市教育大綱について、ご意見を頂き方向性を見いだして行きたいと思っておりますので宜しくお願いします。

委員

基本方針について、いま次の学習指導要領の改訂に向けて中央教育審議会で議論が行われており、恐らくこの基本方針から一歩進んだことを議論していると思います。というのも、「変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の作り手として予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会形成に参画するための資質、能力を一層確実に育成する。」というものは、予測不可能な未来社会に対応するのではなく、その中で自立的に生きて、社会形成に参画する資質・能力を形成するんだ、ということだと思います。と考えたら、今の学習指導要領に謳われている事は、この基本方針のようなことだと思いますが、うきは市としてはその一歩先を見据えて良いのではと思います。ギガスクール構想など、ハード面を国家の計画として揃えるというのはもう始まっています。いまは「個別最適化された学びの実現」として、ビッグデータを基に子どもたちがどこまで理解し、何を必要としているかをICTを使って先生達が把握し、今まで見えてこなかった子どもたちの「知」を共有しながら、「どのようにして一人一人に個別最適化された教育を実現するか」ということまで考えられてきています。そのようにすれば、探求的な学習の時間なんかの余裕ができ、結果的には主体的かつ対話的な深い学びに繋がるのではと思います。その当たりをどう表現するかは思いつかないですが、ここからもう一歩踏み込んだ視点をもって教育大綱は作るべきかなと思いました。

市長

元々この主体的かつ対話的な深い学びにこだわったのは、大学受験の際のセンター試験が共通試験に移行し、回答が記述式に変わってきた中で、一人一人が自分の考えを持つことが重要であろうと考えたからです。「個別最適化」とは、ビッグデータ等を活用しながら個人に合わせた教育を進めるといった

感じでしょうか。

委員

はい。その中で言われているのは「多様な子ども達を誰一人取り残すことのない」というもので、市内でも外国から来た子どもだったり、配慮を要する子どもなど様々な子どもたちがたくさんいて、そういった子どもたちを誰一人取り残すことのない個別最適化された教育ということだと思います。なかなか難しいとは思いますが。

市長

「誰一人取り残すことのない」とは、SDGsにも謳われてますね。それも踏まえ、誰一人取り残すことのない個別最適化された対応ということは、記録に残していきたいと思います。

委員

基本方針を2つ設定されていることは賛同します。特に方針1は、「学校」という場を具体的に掲げてはいませんが、学校については学習指導要領から来ていますので良いと思います。しかし、あと数年後には学校が教育現場というのは薄くなってくると思います。コロナがどうなるか分かりませんが、現在の学校の状況は大きく変わっており、オンライン授業ももう古いと思います。教育の場は、基本的には学校、教室というものがあると思いますが、二次的に家庭や社会教育施設等となる可能性も十分にあり、そうすると不登校の子どもたちへも個別に授業ができるわけです。そのあたり、基本方針の掲げ方は学習指導要領から来ていますので良いと思いますが、裏にもそういった状況があるのではと感じています。教育の場は大きく変わっていくのですが、なかなか予測が難しいですね。

それと、生涯学習の視点から、より良きうきは市民となり得るための学びを続けていくのが大事だと思います。特に、学校を卒業した後に引きこもってしまうなど聞きますし、そういった人たちも全員ひっくるめて、教わらないけども学習できる環境が何かあれば、学校を卒業しても生涯的に自分のやりたいことが学び続けられると思います。

成長発達段階の子どもたちにおける「教育」と、0歳から100歳までの「生涯学習」の視点からの教育方針を設定する点は賛成しております。

市長

参考に、前段の単なるオンライン教育で留まらないという話でその先はどういうふうに思いますか。

委員

私もテレビで見たのですが、コロナによる休校中に東京都内のある学校が、子どもたちに自身の課題を設定させて、先生に質問し助言を受けるという取組を行っており、子どもたちから先生を動かしていくという形でした。指導ではなく助言をすることで、子どもたちが主体的に意欲的に学んでいるような感じでした。この子たちが中学校に上がってきたら中学校の授業は今のままでは対応できないことになるので、本当に予測不可能な状況はあり得るのかなと思いました。うきは市がそうなるかは分かりませんが、大きく変わるという前提で今度の基本大綱を作ってはいかがかなと思います。

もう一つは、うきは市の総合計画の後期計画との整合性はある程度取る必要があると思います。学校教育と生涯学習の項目について、変更した方が良い部分とそのまま継続していく分、継続して10年間で達成したいという当初の目標を可能な限り追い求めることは必要だと思います。小学校が全国学力調査の平均値をクリアしたことは本当に凄いことで、中学校はあと一歩ですが、中学校もどんなに頑張ってもできなかったことが今できつつある状況で、あとひとつ何か押していけば全国レベルをクリアすることは可能じゃないかと思います。ある中学校なんかは、数学の成績がとても良く、こういった状況

は小学校の教育結果が続いてきて中学校で徐々に現れてくるものであるため、継続していく部分と、コロナ後で先行き不透明な部分もありますが、そういった予測不可能な状況も加味しながら大綱ができれば良いかなという思いがあります。

市長

委員からも話があったように、一次の大綱は学校教育でいくと「学力の向上」と「生きる力」をどう育むかというもので、教育委員の皆様のお力添えもあって学力もかなり上昇しており、生きる力についても地域の皆様のご協力で通学合宿やいろんな取組も頑張ってきております。ただ若干課題に思っているのは、全国共通の問題なんですが、「自尊感情」つまり、自分に自信、誇りを持ってない傾向があり、もっともっと社会を生き抜く力の中で自分自身に誇りと自信を持たせることがまだまだ十分じゃなかったかなということです。

先程の前段のお話で、今まで学校で先生が生徒に一方通行でお話があったのが対面通行になり、今後はむしろ子どもが自発的に色々友達と議論しながら主体的に先生に提言して、先生がそれをアドバイスするような社会が来ているということで、しっかり記録に残したいと思います。

一つ確認ですが、生涯学習について「うきは市民大学」についてはどうお考えですか。生涯学び続ける環境について。

委員

うきは市も高齢社会になってくるので、これは予想ですが、高齢者が自力で移動をスムーズに行えない状況というのは当然出てくると思います。高齢者は免許証を返納したら自力で動けないというのが本音で、そういった中で市の施設に学びに来て下さいと言っても、なかなか現実的には難しいと思います。これは私の独断と偏見の意見ですが、組織が大きくなればなるほど自由に動きにくく、うきは市全体でやっているといってもなかなか動けない。それよりも自治協議会や、あまり好きではないですが吉井町と浮羽町で分けるなど通いやすい単位に再編することも課題だと思います。組織の単位は小さければ世話する人がいない、大きければ今度は対象者が来てくれない状況があり、その中間部位が必要だと思います。スタートは御幸校区の寺子屋のような形でも良いし、自治協議会を活用するなど学びの場を作るなど、大きな組織と小さな組織の中間部位を市がどのように繋いで行くかが課題だと思います。

委員

コロナの影響で思ったのが、学び場は学校だけでなく、どこでも学べるのではないかとことです。基本的な学習要綱はあると思いますが、大人になって自立して生活できる子になるためには、質の高い教育が必要だと思いますが、質の高いとはどんなものかと考えています。皆が質の高いものを求められる訳ではないし、先生達も頑張らなければお互いに質の高い教育を提供できないんじゃないかと思っています。

次に基本方針2ですが、職業柄高齢者に接している中で皆が学びの場に行けるかどうか。学びたいという気持ちがあったとしても、それを呼び寄せたり協力できる地域の態勢がまだ不足していると思います。100年時代に向けた生涯学び続ける人づくりは、人がいないことには成り立っていきません。家の中だけではないことで引き出すというのも人づくりなんだと思います。

もう一つは仕事をしている人が休めるかどうかです。休みを取りづらい人にとっても難しいんじゃないかと思っています。

市長

基本方針2は、現役時代と定年退職後を分けた時に、現役時代はリカレント教育のように学び直しをしていく世界と、60歳を超えた世界はいきなり勉強しなさいというのは無理があって、家庭の中で社

会活動、社会参画をしましょうというのが前提にあり、そのためには学びが必要というふうに繋がっていないとなかなか上手くいかないんじゃないかと思っております。なので、原案はまた検討します。

#### 委員

教育は、いま過渡期で変化の中であって、画一的な教育は改めなければならない状況だと思います。プラスワンノートといった自分で課題を見つけて解決するような取組も成績が少し上がってきている要因の一つかと思えます。

基本方針1について、子どもたちの多様性に応じた個別の教育をしていくのが非常に大事で、ICT教育もタブレットで勉強するだけではなく、個人の学習進度に合わせた教育ができる点でも優れているので、そういった力を借りながら進めていくべきだと思います。あと、不登校や学校に行くことを選ばなかった家庭の学習の場についても、オンライン化で学校が学習の場ではなくなるような時代も目の前に来ていることを踏まえて考えていった方が良いと思います。それにより学校に行かない子が増えるという意見もあるかもしれませんが、逆にその垣根を無くすことでお互い行き来ができ、どちらでも選べるというものを先を見越して取り組んでいった方が良いと思います。

教育方針2については、大人も子どもも一緒に学びあっていくという意味であれば自治協議会が校区単位であるので、そこにある学校等の中で学びあう取組をすると、大人も子どもも育ち合うような雰囲気が出てくると思います。国も地域に根ざした学校教育というのは昔から言われており、更にそれを進めたような形で地域と学校が一つになってお互い学びあっていく形が生まれると新しいことができるんじゃないかと思えます。

#### 市長

ありがとうございました。別の会議でも、やはりうきは市もデジタル化社会を見据えてコロナ支援対策をやるべきというご意見を頂きました。そういった過程で、ある人からはギガスクール構想の前倒しを含めて一番大変になる現場の先生は大丈夫かという声が上がったのですが、そこはどのように思われますか。

#### 委員

やはり大変な状況で、たとえば子育て中の音楽科の先生など、吹奏楽部や合唱コンクール、文化祭委員会など、一人ではできないほど多くの業務を抱えており、補助員的な外部指導者が勤務時間終了後から対応するというような支援をしないと大変な状況です。今は部活は土日のどちらかと平日1日は休みとなっており昔と比べたらいくらかは助かってはいます。ただ、今後社会教育や生涯スポーツの関係の施設を行政側がどれだけ整えるか、ここが整わないと先進国やヨーロッパのように放課後すぐに帰すことは難しいところだと思います。

#### 市長

わかりました。それともう一点、オンライン授業等が進む中で、通信技術に長けた先生でないと厳しいというか、その点で悩みを抱える先生もいらっしゃるのでしょうか。

#### 委員

当然いると思います。ただ、うきは市教育センターでは小中学校の先生合同の研修会や、児童会と生徒会も合同で協議などを実施しており、ある程度の成果を出していると思います。

#### 市長

うきは市は4、5年前からタブレット端末導入に取り組んできましたが、他の自治体はいきなり国の

指導で今年から前倒しで動いており、ハードよりもソフト面で資力がついていかないというのが大きな課題になっているようです。

委員

小学校の英語活動は、教育センターの夏休みの研修で他の地域より随分多くやっており、そういったものは教育センターを持っている強みだと思います。

市長

なるほど。いま取り組んでいる英語教室の状況はどうか。

事務局

軌道に乗りつつありましたが、今はコロナの関係で中止しています。

委員

まだ見学はできていませんが、とても良い試みだと思います。

市長

ありがとうございます。いま、基本方針1と基本方針2についてご意見を賜りました。基本方針1については、もっと世の中は進んでおり、大綱ならばもっと先を見据えたらどうかということで、その一つの課題として、個別最適化というような子どもたち一人一人の多様性を引っ張り出すようなことを書き込んだらどうかという意見を頂きました。基本方針2については、もう少し踏み込んだ内容にするのと同時に、自治協等のコミュニティ組織を活用したらどうかというご意見を頂きましたので、それを踏まえてもう一度練り直したいと思っております。他に言いそびれたことはありますか。

委員

人生100年時代というのは、働きながらも余暇の利用で学べるということも意味しているのですよね。定年後にいきなり学びましょうというのは難しい気がして、働いている間でも余暇を利用して学べるというのがポイントだということをもっと出していただけると少し違うと思います。

市長

もっと社会活動をしてそこで学びましょうとか噛み砕いていいと思います。例えば定年延長でそのまま働くことも良いし、一生涯のうち全然違う職種で働くとか、副業をかかえてやってみるとか、ボランティアに専念するとか、あとは定年後何もしないという人もいるかもしれない。しかし、何もしない人も社会参画を促さないといけないと思います。30年前の高齢化率が低いときは、65歳以上の方ひとりを7人で面倒をみる世界でしたが、いまはそれが3人で1人から、1人で1人になってきています。今考えているのはこの65歳以上を分母に持つてこようというものです。どんな形でも良いので何かしら生涯で社会参画するためには学習や学びが必要で、動機付けがない学びはあり得ないと思っておりますがそのあたりどうですか。

委員

何か準備されたものに対して行くという学びではなく、お互い学び合うような社会活動を促進していくことがひとつの学びだったりすると思います。いろんな形の学びですかね。

委員

基本方針1で、デジタル化だけではいけないと思います。今回のコロナでも、ワクチンと薬だけでパンデミックが治まるかというそういう訳ではなく、歴史を省みてその中で流れを読み取り、どう対処していくのか、世の中の流れを読むというか、そういったものをきちんとやらないといけないと思います。デジタルやAI、データでどうこうするだけではなくて、あくまでそれは道具で、言葉と自分の考えをしっかりとった上でコミュニケーションをとり、社会や状況を見据えることができる芽を作っていないかなくてはならないと思います。

市長

今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなくなり、いかに平凡な日常が重要かという話の中に、このコロナ関係で支え合う人が欲しいということでオンラインで知り合って即結婚する人が増えているようです。要するに、機械だけでなく人間性というか、そういう視点を忘れないようにという話ですね。そういうことでよろしいでしょうか。他にないようであれば、頂いた意見をもう少し盛り込んで、基本政策の柱を示していきます。では、以上を持ちまして進行を代わります。

閉会